

令和6年度第2回学生と教員とのFD懇談会実施記録

期 日：令和6年12月20日（金）17：00～18：40

場 所：八木山キャンパス1号館3階133教室

出席者：学科から7名の学生、FD・IR企画部会委員から8名、
内部質保証推進委員から教職員2名、事務局

司会よりFD活動および学生FD懇談会の趣旨について説明があり、また学生に対して自由に率直な意見を述べてほしいとのお願いがあり、懇談会が開会した。

大学への要望（授業や試験以外）について

- 学科内の自販機に、軽食や食べ物系のアイテムを少し置いて欲しい。実験や研修などで夜遅くなることもあり、近くにコンビニはあるものの、学内で手軽に食べ物を購入できる場所が欲しい。
- クラブ棟のシャワー室を清掃して欲しい。
- 課外活動で利用している4号館2階のスタジオについて、エアコンおよびWi-Fiスポットを設置して欲しい。
- カウンセリングルームの利用について、利用したくても都合がつかずに利用できない学生もいるのではないかと感じている。平日いつでもカウンセリングを受けられるようにして欲しい。
- 前期の授業で、スマホ使用禁止や隣席との会話禁止のほかに、授業中の水分補給やトイレ離席に関する厳しいルールを設けられた授業があった。学期の途中から、ルールの緩和がされたものの、まだ厳しいと思っている。
- 授業の内容や提出物に関する指示が先生ごとに異なっていたことがあった。教員間の情報共有を十分にしたい。
- 学生のスケジュール調整のためにも、特別な事情が無い限り、授業、補講、補習などを含む各種連絡は2週間前には連絡して欲しい。
- コロナの時期より実施された授業録画システムは、授業を見返すことができるので非常に便利だった。他学科の授業も視聴することができるため、今後も続けて欲しい。
- パワーポイントの資料を読み上げるだけでなく、板書や対話なども含めた授業を行って欲しい。
- 授業録画システムについて、効率よく学習ができ、重要なポイントをすぐに見つけられるようにするためのサーチ機能などが欲しい。
- 試験に対するフィードバックの充実や、授業に関する個別質問に柔軟に対応して欲しい。
- 期末テストの日程が数週間前から周知されたことは、個人のスケジュール調整がしやすかったため有難かった。
- 実験レポートの不明点についてメールで質問したところ、すぐに返信してもらえたことが嬉しかった。

試験に対する要望について（期末試験、授業中実施試験、レポート試験等）

- 定期試験日程に偏りがあり、試験勉強が大変であった。試験科目の分散や試験日程のバランス調整をお願いしたい。
- 試験勉強のスケジュールを立てるためにも、日程の周知を2週間前ぐらいには出して欲しい。
- 成績発表日に成績が出せない科目がある場合は、事前に連絡が欲しい。

その他

- 大学生活を充実させたいため、他の学科やサークル代表者との交流会を企画して欲しい。
- 一部教室の机の高さが低い改善を希望する。
- 長町キャンパスの路線バスの増便を希望する。
- 学生が出場する大会等への全学応援イベントを考えて欲しい。

ブランディングに関するアンケート

<質問1>自身の大学での活動や学びと「スローガン」について語れることがありますか？

○回答0「話せない」7人中5人

回答1「話していたが理解できていない」7人中2人

<質問2>スローガンがあなた自身の活動や学びにどのように活かされていますか？

○スローガン「エスキースを描く」は浸透しているが、実際には活かされていないと感じる。研究室に配属後、教授との話で視野が広がり、授業の受け方も変わった。就職や大学院進学を考える際、その学びを自身のものにできた時、このスローガンに沿った成長を実感するようになると思う。最終的に、スローガンがあるからこうなったのではなく、自分が成長したからこそスローガンに見合う人間になれたと卒業時に実感できれば理想的と思う。

○入学時のオリエンテーションで初めて「エスキース」というスローガンを知った。この言葉に触れたことで、本屋大賞の作品「青と赤とエスキース」を手取るきっかけとなり、読書のジャンルが広がったと感じた。

<質問3>どのような時一体感を感じますか？なぜそのように感じますか？

○設計の授業では、提出間際に深夜まで多くの学生が作業し、特に3年生のとき強い一体感を感じた。提出後に皆で「お疲れさま」と労い合い、友人が増えて仲良くなる機会も多かった。

○実験などの授業をしているときに一体感を感じた。役割分担をしながら実験に取り組む中で、説明やレポートの内容を共有する過程で一体感が生まれ、お互いの理解が深まった。また、あまり関りの少なかった友達と話す機会も増え、実験の授業は非常に有意義だと思った。

○1年生時に所属していた大学祭のサークル活動で、大学祭直前に全体で学校を盛り上げようと

いう雰囲気生まれた。全員でいろいろな準備を進める過程で強い一体感を感じた。

<質問 4> ブランドやスローガンが実現もしくは具現化されていると思いますか？ そのように考える理由があれば教えてください。

○工学部が学科制から課程制へと移行することが、提供価値の「広く学び」と「つなぐ」が具現化されていると感じた。

最後に、渡邊学長より参加者への感謝が述べられ、特に授業や試験の評価方法についての話題が取り上げられたほか、試験の一発勝負の妥当性について再考する必要性や、積み上げによる評価の重要性が強調された。また、ブランディング調査に関するアンケートでは、学生と教職員が一体となって未来を形作る意識の重要性が確認された。新しい課程制の移行に関しても、全員が共に目指す目標として取り組んでいくことを期待しているとの挨拶があり、閉会した。

